

H24.06.26

「造反 57 名 民主党崩壊へ」

こんにちは。参議院議員の西田昌司です。今日は 6 月 26 日火曜日です。先程、衆議院の本会議で税と社会保障の一体改革の法案が可決され、民主党の造反が 57 名にのぼることが明らかとなりました。54 名以上ですと、彼らが離党した場合、内閣不信任案が可決されることになると言われていましたが、まさしくその状況が目の前に現れてきています。それに対し、輿石幹事長はじめ民主党は造反者の処分をするかどうか、まだ考えていないということです。何のために反対し、もとの政党に所属しているのか、考えさせられる事態です。参議院では、衆議院が本会議で本日行った決定を、翌日の本会議でその法案が上程されてくる段取りになっています。しかし、与党側からは何の連絡もありません。今週に本会議が開かれるかどうかすら、与党民主党から何にも示されていないのです。衆議院では一応法案は通っていますが、本来、参議院で通らなければ、法律にならないのですが、その準備自体まだしていないことに呆れてしまいます。

自民党も公明党も、例の三党合意で税と社会保障の一体改革をすることになっていますが、与党側がこれだけ出鱈目な対応をしてくると、果たしてこの合意が継続できるのか、油断ならない状況です。特に、これは国民に負担をお願いするので、政府与党が一致団結して国民にお願いしなければ、増税ができるのかどうか、疑わしくなっております。この問題については何度も発言

していますが、税と社会保障を含めて国民負担率が、先進国の中で皆保険・皆年金制度ができているにもかかわらず、GDP の 40%はかなり低い数値であり、こんなに国民負担率が低い国はないのです。普通は 5 割以上あります。そういう意味で言いますと、今回消費税の負担率が上がってくるのもやむを得ないのです。しかし、現在は増税するような時期ではなく、まずは GDP、景気の回復をし、税収が増える仕組みにもっていかなければならないのです。ですから、とりあえず増税法案を通しましたが、実際に消費税を上げるかどうかは、来年 9 月の審判になるのです。

それ以前の段階として、今の与党の体たらくでは、国民に対して説明すらできないことになっています。私は当初から指摘してきましたが、党内で何の議論もしないで、唐突に菅氏が首相の時に消費税を上げると言い出しました。野田氏に至っては、昨日の演説にしても「心から、心から、心から、お願いします。」と頭を下げて、党の代議士会で話したらしいですが、野田氏の言葉は代表選の時も然り、自分の誠意を伝えようとするだけの選挙運動に過ぎません。本当の政治とは、口先だけで頭を下げてできるのではなく、しっかりと手続きを踏んでいかなければならないのです。党内に問題があるなら、問題について党内で議論し、問題の認識を共有しなければ、法律を通すことなどできないのです。このような認識がないと、マニフェストを作ったり、政権を担当することはできません。彼らの今やっていることは野党時代と同じです。国民に対してパフォーマンスを続けて、その延長線上で政権を取って、結局中身のないパ

パフォーマンスですから、自らが減びてゆくのです。我々は、今まさにその状況を目の当たりにしているのです。

我々はこれから、参議院で何時この法案が回ってくるのか、参議院の本会議の予定すら立っていません。この手続きは与党の仕事ですから、与党がやるべきことを行えば、当然我々も税と社会保障の議論に応じます。そして、問題点を一つ一つ指摘すると同時に、税と社会保障に限らず、民主党政権がこの2年半、3年近くの間になんな出鱈目をやってきたのか、このことも指摘します。私は予算委員会で十数回質問してきましたが、質問している私ですら、次から次へと問題が出てきておりましたから、積み残しがいくつもあることを私自身も忘れてしまう位、たくさんあるのです。外国人献金の問題にはじまり、中国人スパイの話など様々な問題がありますが、これらの積み残しをもう一度洗いざらい整理して、法案の審査と同時に、民主党が一体何をやってきたのか、何を言ってきたのか、そしてその結果、今何が起こっているのか、ということを国民にしっかり示さなければならないと思います。

いずれにいたしましても、今日が民主党の崩壊の始まり、第一章の幕が下りたわけでありますから、我々は第二章、第三章、そして終章に向けて、民主党が世の中に存在できない政党であることを国民に知らせ、解散総選挙で国民に信を問うために、全力で頑張っていきます。今後とも、ご支援よろしく願います。

本日も御覧頂きありがとうございました。